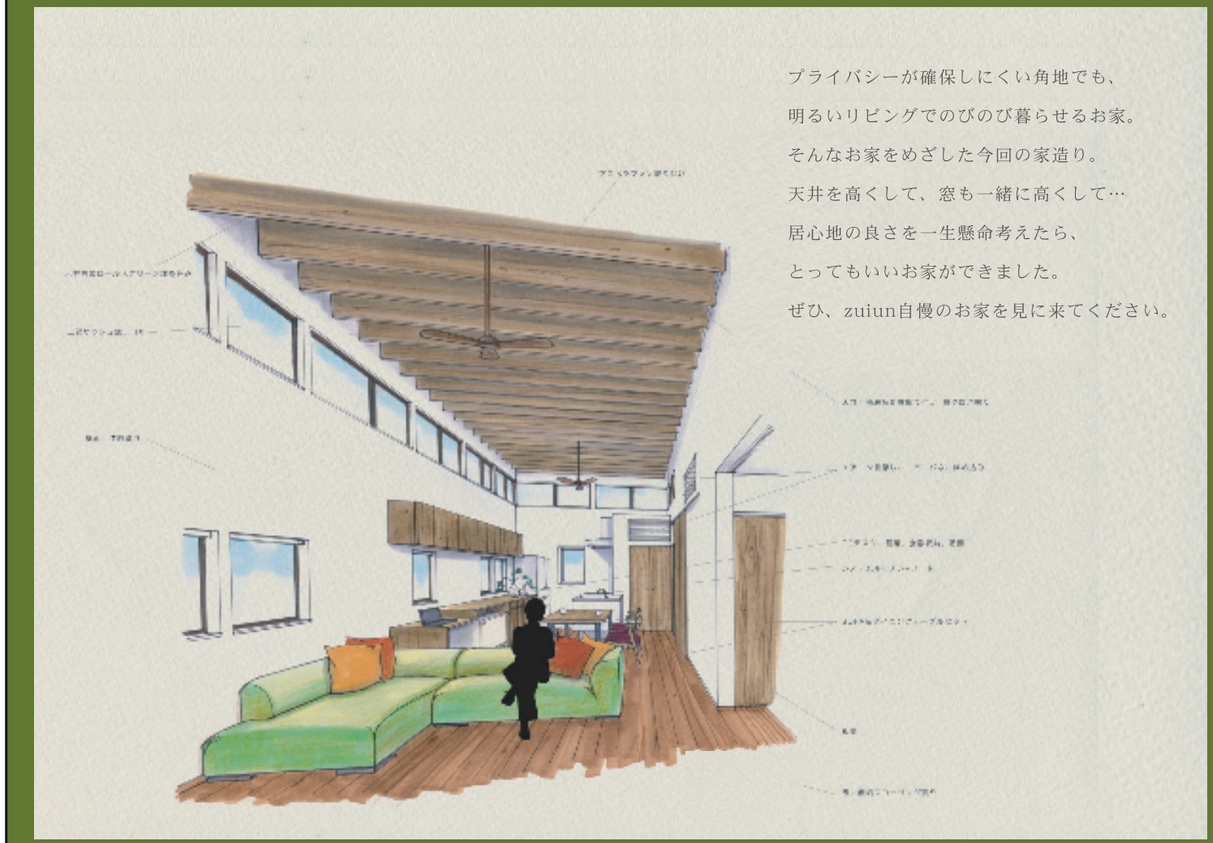
zuiun建築設計事務所 zuiun



プライバシーが確保しにくい角地でも、
明るいリビングでのびのび暮らせるお家。
そんなお家をめざした今回の家造り。
天井を高くして、窓も一緒に高くして…
居心地の良さを一生懸命考えたら、
とってもいいお家ができました。
ぜひ、zuiun自慢のお家を見に来てください。

家具から始まる家づくり。

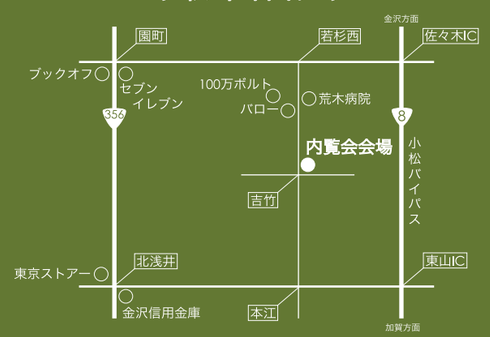
新築住宅
内覧会開催

VOL.11

12 / 11 sat・12 sun
18 sat・19 sun

open 10:00 ― close 18:00

小松市吉竹町



※混雑時予約制　※誘導看板を目印にお越し下さいませ
※道に迷われた方は下記の番号へお電話下さい
www.zuiun.jp
tel.076-213-5505

家は道具？

ZUIUN便り　Vol.15

家は（住宅は）、日用雑貨や家具と同様、道具なのではないかと思います。そう思ったほうが、住宅を設計している時に考えがまとまる事が多いのです。

使う事を目的としている道具は、デザインやディテールを身体的なスケールを元につくられる事が多いと思いますが、私の場合、家も又、同様に考えてつくるようにしているので、細部まで丁寧につくらなければ、住み心地に影響がある様に思ってしまいます。

ただ使いやすいだけでも駄目ですし、デザインが良いだけでも駄目です。総体的にバランスを見ながら検討を進めなければなりません。

当然、オーダーされる訳ですから、オーダーされる人が使いやすく、且つ、気に入るデザインでなければならないので、好きな音楽や、よく読む雑誌、趣味にいたるまで、その人の日常をお聞きして、デザインの糸口するようにしています。使い勝手については、平日と週末の、家での過ごし方をお聞きして、間取りの検討材料にしています。

やっぱり大切なのは、「普段使いの快適さ」だと思います。

得てして私達の業界は、デザインについて話題性や新奇なものを持てはやす傾向があるのは否めません。実際に店舗のような住宅があっても面白いと思っていた時期もありましたが、流行を追い、消費されるような商業的なデザインを求めるのは、使う道具として考えると、住む人にとってみれば、長期的に使い勝手の良いものではなく、生活にしっくりと馴染んでいかないように思えます。つまり住み心地が悪くなってしまうと思うのです。デザインされつくした緊張感のある非日常空間は、第三者のケアがあってはじめて、居心地と結びつくものです。

リゾートホテルや高級レストランのような、もてなされる場所では、第三者のもてなしも含めて、非日常を満喫できるのだと思います。

あくまでも住まいとは、住む人の「普段」をデザインすることであって、背伸びした生活を無理強いすることであってはいけないと思っています。

とは言え、住まい手の「普段」をデザインする事は、デザインする側の一人よがりでは成立しないので難しくもあります。もしも住む人の日常に馴染まないものをデザインしてしまった場合、デザインは邪魔なものでしかなくなってしまいます。無意味でコンセプトの無い、ただ切り貼りしただけのようなものは、途端に飽きてしまって違和感を感じてしまいます。

センスよくデザインや新しさを取り入れると言う事は、そんな違和感を感じさせないか、感じない生活を既に習慣としている事です。

服を着る行為と似ていると思います。オシャレな人は、普段からオシャレであり、オシャレでない人が、何か新しくデザインを身にまとっても、本人がまず落ち着きません。

「普段」を検討する時、家もまた、普段使いの道具として考える事が、家づくりの大切なプロセスだと思います。

近年、耐震性や断熱性をしきりに数値化して、良い家のバロメーターのようにする風潮があります。しかし、そこから見えてくるのは数値化された部分の一面性でしかなく、住み心地に直結するとは思えません。むしろ、光の射し込み方や、風の通りかたのような感覚的な部分のほうが大切な要素だと思います。

ソファを購入する時、座り心地を確認すると思いますが、それは、感覚的な判断をする為の行為です。

家もソファも同じだとは言いませんが、「使い心地」を求めるのであれば、使う時のシチュエーションを考慮する必要がありますし、家づくりも同様と言う意味では、家もソファも普段使いの道具と言えます。

家は機能をまとった箱ではなく、普段使いの道具であったほうが大切に使っていけるのではないでしょうか？